



Waseda University Institute of Comparative Law  
早稲田大学 比較法研究所

## 創立 60 周年記念国際シンポジウム

# 持続可能な社会のための法を求めて Law and Sustainability 学の推進

Legal Studies for Sustainable Society: Promoting the Study of Law and Sustainability

2018年9月29日(土)・30日(日)  
早稲田キャンパス 27号館 B2 小野記念講堂  
【日英同時通訳付】  
共催：早稲田大学法学部

このシンポジウムは、現代、我々が抱える問題を巨視的な視点からまずとらえ、次に具体的な事象において議論し、ふたたび巨視的な視点において集約しようとするものです。

- 次世代を考えずに地球環境を大なり小なり壊し続ける我々。
- 大家族から核家族、そして無家族または Line 家族？我々はワンクリックで幼老病障のケアまで業務委託してしまう社会となるのでしょうか。
- 仮想空間の金融手段に訴え、金融商品をもてあそぶ我々。1秒未満で取引される株式。瞬間的に株主になって会社の議決まで左右できる現状。
- 拡大を続ける世界規模での貧富の格差も他人事のように考える我々。

マクロにもミクロにも、我々は社会の持続可能性を加速的に失っているのではないのでしょうか。その自覚の少ないまま、我々が作り運用する法や制度は、持続可能性を加速的に滅失させる手段や因子になっていないのでしょうか。

法は一定の価値や思想によって作られ運用されます。我々は社会全体の持続可能性、次の世代の利益について十分に考慮して、それを法に織り込んで運用しているのでしょうか。

現代社会における法のあり方を、社会の持続可能性（現世代そして次世代、今日そして将来を見通した正義）の視点から批判的に省察するのが、このシンポジウムの課題であり、問いかけです。

早稲田大学比較法研究所

所長 中村 民雄

# 創立 60 周年記念国際シンポジウム プログラム

1 日目 (9 月 29 日)		司会
9:00-9:10	<b>開会の辞</b> 中村民雄 (早稲田大学 比較法研究所 所長)	黒沼悦郎
9:10-10:10	<b>基調講演</b> <b>持続可能性と法—環境法の視座— Sustainability and the Law</b> クラウド・ボスルマン (オークランド大学) (40 分) + 質疑応答	
10:20-12:20	<b>【環境クラスタ】</b> 大塚直、進藤真人 (早稲田大学)、木村ひとみ (大妻女子大学) シャンドル・フロップ (ハンガリー国立公共サービス大学)	大塚直 進藤真人
昼 食		
13:30-15:30	<b>【ケア社会クラスタ】</b> 岡田正則、菊池馨実、橋本有生、山口齊昭 (早稲田大学) フィリップ・フェネル (カーディフ大学)	山口齊昭
15:45-17:45	<b>【土地利用クラスタ (農地)】</b> 榎澤能生、文元春 (早稲田大学) 陳小君、耿卓 (広東外語外貿大学)	榎澤能生
2 日目 (9 月 30 日)		司会
9:10-10:10	<b>基調講演</b> <b>ブロックチェーン・持続可能な金融制度と法</b> <b>Block Chain, Sustainable Financial System and Law</b> ルーク・テヴェノ (ジュネーブ大学) (40 分) + 質疑応答	中村民雄
10:20-12:20	<b>【企業・企業行動クラスタ (金融)】</b> 黒沼悦郎、久保田隆、渡辺宏之 (早稲田大学) ルーク・テヴェノ (ジュネーブ大学)	黒沼悦郎
昼 食		
13:30-15:00	<b>基調講演</b> <b>持続可能な経済社会と企業法制</b> <b>Company Law and Sustainable Society and Economy</b> 上村達男 (早稲田大学) (40 分) + 質疑応答	中村民雄
15:10-16:00	<b>総合討論</b>	中村民雄

## 1 日目 (9 月 29 日)

### 【環境クラスタ】

#### 環境分野における将来世代との衡平の確保

特に気候変動において顕著なように、将来世代の利益と現在世代の利益の緊張関係が生ずる環境問題においては世代間の衡平を現世代の民主主義のみに頼って確保することには無理がある。従って、世代間の衡平性を確保するための制度的枠組の構築が求められる。基調講演でクラウス・ボスルマン (Klaus Bosselmann) 氏より世代間衡平の理論的側面について言及した後、本セッションでは、その実務的側面に焦点を当てる。具体的には、大塚より問題の核心について、木村より英国の事例について、そして前ハンガリー議会将来世代オンプズマンのシャンドル・フロップ (Sándor Fülöp) 氏より将来世代の利益を代表する機関についての報告を行い、進藤によるフロップ報告へのコメントを挟み、質疑応答を行う。

- ◆大塚直「将来世代との衡平を確保」
- ◆木村ひとみ「イギリス気候変動委員会からみる将来世代との衡平性の確保」
- ◆シャンドル・フロップ「将来世代の利益を代弁する機関」

### 【ケア社会クラスタ】

#### 持続可能なケア社会づくりにむけて ~これからの意思決定支援を考える

わが国の成年後見法の下では、判断能力が不十分な者に代わって代理権や同意権を有する第三者が決定を行うが、このような従来の「代行決定」枠組みに対して、近時、国際法上批判がなされている。まず日本の現状について報告者が問題点を指摘し、法改正中のイギリスの状況についてフィリップ・フェネル (Philip Fennell) 氏より解説をいただく。以上を踏まえ、これからの自立支援・意思決定支援の在り方についてのコメントの後、質疑を行う。

- ◆橋本有生「わが国の成年後見法の課題：障害者権利条約の観点から」
- ◆フィリップ・フェネル「近時の障害者権利条約と国内法の改正に関する議論」

### 【土地利用クラスタ (農地)】

#### 農地に関する権利の流動化と農業構造の変動に関する国際比較

地域に定住する家族農業経営を中核として編成されてきた農業構造と農村社会が、大資本による農業参入を通じて大きく変動し始めようとしている。近年のヨーロッパ諸国、中国、日本に共通して観察される現象である。所有の分散と地域社会の担い手を確保することを目的とする、国家法による農地取引規制は、このような社会変動に直面して動揺するか、あるいは社会変動を後押しする方向で積極的に改廃されようとしている。本セッションでは、共通する社会変動にドイツ、中国、日本がいかなる規範的対応をしようとしているかを議論したい。

- ◆陳小君「中国における農地「三権」分置政策の発展および農業社会に対する影響」
- ◆榎澤能生「ドイツと日本における農地流動化傾向と、その農業構造への影響」

## 2 日目 (9 月 30 日)

### 【企業・企業行動クラスタ (金融)】

#### 持続可能な金融システムに向けて ~ブロックチェーン・仮想通貨の法規制

『ブロックチェーン』は、既存のシステムと全く異なった「分散型台帳のシステム」であって、ビットコイン等の仮想通貨を可能にするものであり、金融システムをはじめとした従来のシステムのあり方を根本的に変えるほどの可能性が期待されている。本セッションでは、ブロックチェーンの画期的なイノベーションを十分に活用し、また、仮想通貨取引から生じる様々な問題を十分に統御できる法規制の整備について議論したい。具体的には、ルーク・テヴェノ (Luc Thevenoz) 教授の講演内容を受けて、仮想通貨とブロックチェーンの関わりについて述べつつ、仮想通貨取引に関連するいくつかの法律問題を取り上げて議論する。

- ◆渡辺宏之「仮想通貨取引をめぐる展望と問題点」
- ◆ルーク・テヴェノ「ブロックチェーン、金融と法：持続可能性に対する革新」

